

子供と自然をつなぐ地域プラットフォーム形成支援事業 (学校・地域を避難所と想定した防災キャンプ)

平成29年度愛知県「青少年防災キャンプ推進事業」

愛知県教育委員会

【事業のポイント】

- 学校を核として、子供を取り巻く地域内の様々な団体・個人の横のつながりを強化してネットワークを作り、それを持続可能な組織とするために、地域の新たな人材を発掘する。
- 女性防災活動団体を中心として他の地域に対しても、災害時に女性に期待される活動などを周知して、防災意識の高い女性を掘り起こし、女性の防災ネットワークづくり、女性防災リーダーの育成に取り組む。
- モデル地区の地域特性を生かした取組について、その成果や課題を事例発表会で発信、共有するほか、事業報告書を配布するなど、モデル事業の成果や課題を県内市町村に周知する。



避難所運営(地域住民の受け入れ・把握)

1. 企画

(1) 事業実施の背景

愛知県は南海トラフ地震防災対策推進地域に指定されている市町村を多く抱えており、巨大地震発生時には、強い揺れによる甚大な被害はもとより、ゼロメートル地帯における津波被害、地盤沈下等による浸水被害、土砂災害等、様々な被害が想定される。このような背景から、県教育委員会は子供たちの体験型防災学習と地域の多様な機関等の連携促進による持続的なネットワークづくりを目的として、平成24年度以来、県内の9市町で防災キャンプを実施してきた。様々な地域特性を考慮した防災モデル事業を基盤として、学校教育、社会教育及び家庭教育の連携によるモデル事業や、子供たちが被災者であるだけでなく支援者となり得るためのモデル事業等を通して、子供たちの防災意識の向上や、地域の多様な人々の協働意識の向上を図り、教育委員会と防災担当部局の連携を促進してきた。

その結果、防災キャンプについては、かなり周知されてきたが、まだ全県的な広がりとはなっておらず、また、防災キャンプの実施市町村に偏りが見られる。沿岸部の地区に比べて内陸部の地区では防災キャンプを実施した市町村が少なく、防災キャンプの実施が進んでいないことから、地域プラットフォームの形成が望まれる地域は多い。

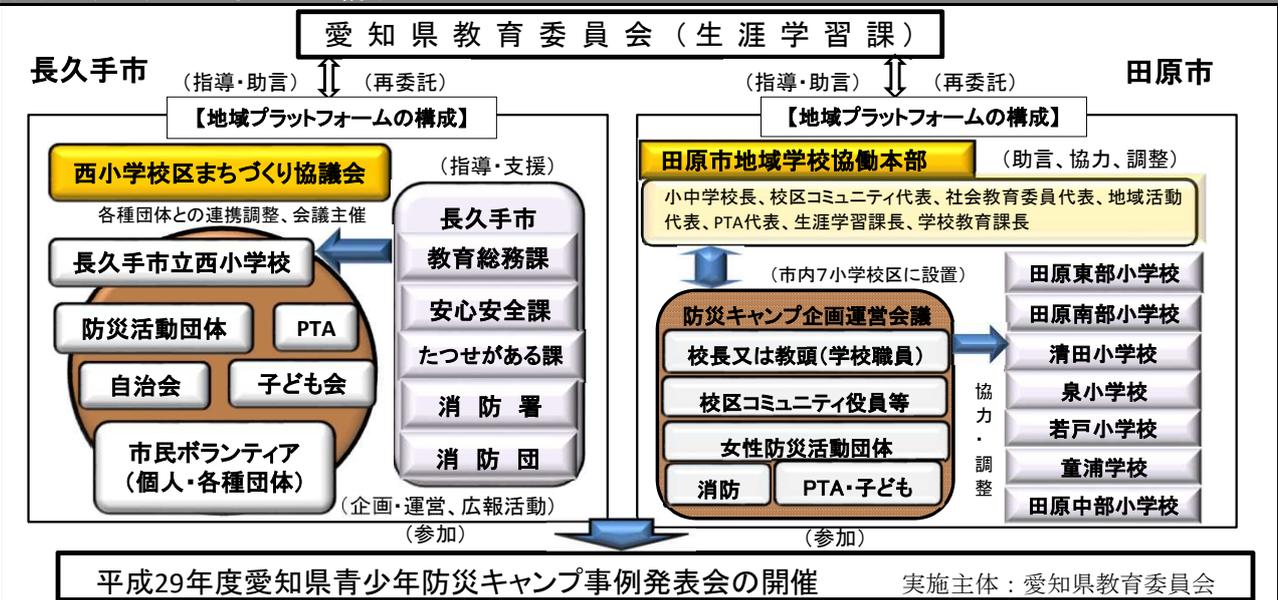
(2) ねらい

平成29年度は、今までに防災キャンプを実施したことがない内陸部の地域と、逆に過去に実施の実績があり、津波の危険性があり防災意識が比較的高いと考えられる沿岸部の地域の2市に本事業を委託することとした。それぞれの地域の特性を生かした取組について、実施に向けた準備過程や、実施した成果を広く全県に発信することにより、全県に防災キャンプの裾野を広げていく。また、これからの学校は、「次世代の学校・地域」両者一体となった体系的な取組を進め、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」への転換を図ることが求められている。そこで平成29年度は、学校を核として、子供たちを取り巻く地域の様々な人々が連携・協働した新たな地域プラットフォームづくりをねらいとして本事業を実施する。

さらに、防災キャンプや地域プラットフォーム構築の成果を県内全域に広めることをねらいとして、県事業として、防災キャンプ事例発表会を開催した。

2. 実施概要

(1) 地域プラットフォームの構成



(2) 具体的な取組の概要

1 長久手市西小学校区「地域プラットフォーム」の取組

① 防災キャンプ 企画運営会議	平成29年8月24日(木)、9月12日(火)、10月2日(月) (西小学校区共生ステーション)
防災キャンプの運営方法等について、事業主体者が集まり、子供たちを取り巻く地域全体の防災に対する意識を高めるプログラム編成や、実践に即した避難所運営の在り方について検討する。	
② 事前説明会	平成29年10月11日(水)及び12日(木) (西小学校区共生ステーション)
10月21日、22日に実施される防災キャンプに参加する保護者等に対して事前説明会を開催する。	
③ 防災キャンプ	平成29年10月21日(土)～22日(日) (長久手市立西小学校)
活動趣旨	学校と地域が一体となって避難所運営を実践的に体験する機会とするとともに、子供を取り巻く地域内の様々な団体・個人の横のつながりを強化してネットワークを作り、それを持続可能な組織とするために、地域の新たな人材を発掘し、地域と学校が一体となって「地域とともにある学校」を目指す。
参加範囲	長久手市立西小学校4～6学年児童とその保護者及び地域住民
参加人数	178人(西小学校児童67人・保護者9人・教職員14人・地域ボランティア等88人)
プログラム	
10月21日(土)13:00	地震発生(想定) 避難開始
13:30	開会式及びシェイクアウト訓練
14:00	防災訓練 ①パッキング ②防災グッズ作り【スリッパ、ホイッスル】 ③紙皿作り ④竹串タワー立て(班単位で各教室を回り、防災グッズ等の作成やパッキング等についての知識を高める。)
16:30	防災教材「いえまですごろく」による災害時の疑似体験。防災知識の向上及び自助・共助意識を高める。
17:45	心肺蘇生及びAED訓練 救急救命士から講習を受け、実際に訓練用の人形を使って心肺蘇生法等を学ぶ。
18:45	炊き出し・夕食(豚汁・アルファ米) 避難所におけるアレルギー食の調理方法等について学ぶ。
19:30	就寝準備 (折りたたみ式の畳等を用いて居住スペースを作製。間仕切り壁等の個人スペースの重要性について学ぶ。)
20:00	暗闇体験 (電気が使えない場合を想定しての暗闇体験を行い、その危険性について学ぶ。)
21:00	消灯
10月22日(日)6:00	起床、ラジオ体操、健康観察
7:00	朝食 (アルファ米でのおにぎり作り)、片付け
8:00	災害鑑賞 震災前の日常生活を取り戻すため、頑張っている人々の気持ちを考える。
9:00	2日間のふりかえり、まとめ
10:00	閉会式
④ 防災キャンプ 参加者報告	平成29年11月19日(日) 長久手市立西小学校
今後の地域防災活動に活かすために、市内一斉防災訓練に合わせて、西小学校体育館において上記防災キャンプの事業報告を実施し、地域全体で情報を共有するとともに、防災意識の向上を図る。	



2 田原市校区「地域プラットフォーム」の取組

実施校: 田原東部小・田原南部小・清田小・泉小・若戸小・童浦小・田原中部小 計7小学校

① 事前防災教育 プログラム	平成29年7月4日(火) 講師: 関西大学准教授 奥村 与志弘 氏
防災キャンプの趣旨、目的等の意識付けとして事前に子供を対象として防災教育プログラムを実施。(泉小、若戸小)	
② 事前防災教育 プログラム	平成29年8月4日(金) 講師: 滋賀大学大学院教授 藤岡達也 氏
市内学校の管理職を対象に、日頃からの災害の備えや心構え、地域連携の重要性についての講演を実施。	
③ 事前防災教育 プログラム	その他、事前防災教育プログラム(7月初旬～10月下旬)
○「防災食をつくってみよう」(田原南部小) 【講師:スマイルの会】 ○「防災ボランティア被災地の話」(田原東部小・清田小・泉小・若戸小) 【講師:防災ボランティア協会】 ○「避難所運営ゲーム(HUG)」(若戸小ほか) 【講師:田原市防災対策課ほか】 ○「田原市の過去の災害について」(田原東部小・清田小・田原中部小) 【講師:田原市共有コーディネーター】 ○「防災対策について」(田原南部小・若戸小・童浦小) 【講師:田原市防災対策課】 ○「避難所の心得」(清田小・若戸小・泉小) 【講師:田原市健康課】 ○「リラクゼーション」(清田小・泉小・若戸小・童浦小・田原中部小ほか) 【講師:赤十字奉仕団】 ○「家屋の地震対策」(若戸小、泉小ほか) 【講師:建設業組合】	
④ 防災キャンプ	平成29年7月24日(月)～同年7月25日(火)

活動趣旨	地域・家庭・学校・行政・地域団体等が連携して子供を育む体制を構築することにより、地域内の人と人との絆づくりを推進して、地域力の一層強化を図るとともに、実際の避難所において欠かせない女性リーダーの育成に取り組む。	
参加範囲	田原市内7小学校(田原東部小、田原南部小、清田小、泉小、若戸小、童浦小、田原中部小)の4～6学年児童とその保護者及び地域住民	
参加人数	総勢494人(児童272人・保護者62人・教職員46人・ボランティア等114人)	
実施日	<ul style="list-style-type: none"> 7/24(月)～7/25(火) 田原東部小学校及び田原南部小学校 8/24(木)～8/25(金) 清田小学校、泉小学校及び若戸小学校 8/25(金)～8/26(土) 童浦小学校 10/27(金)～10/28(土) 田原中部小学校 	
プログラム(田原東部小)		
7月24日(月)15:00	避難開始(避難を促す地区放送や、一斉メールを流す)	
16:00	開会式	
16:15	初期消火訓練 水消火器を用いた的当て消火訓練に加え、代表児童が泡消火器を使用し、実際に消火活動にあたる。	
17:00	応急処置訓練 「三角巾を用いた腕当て作り」「サランラップ等を用いた応急手当」「担架作り・人員搬送」	
18:30	夕食(非常食「ドライカレー」及び「ポターージュ」、片付け)	
19:30	防災講話 被災地の生活や、学区内の危険箇所等について児童一人一人が考え、全体で情報共有をする。	
20:30	居住スペース作製(簡易間仕切り段ボール)	真水浄化器の使用訓練
21:30	就寝	
7月25日(火)6:30	起床(居住スペースの撤去及びラジオ体操)	
8:00	防災倉庫内の機材紹介及び使用訓練 簡易トイレの使用方法を学び、実際に真水ろ過装置の使用訓練を行う。	
8:30	非常用持出袋の確認 自宅から持参した防災グッズの確認及び意見発表	
9:30	閉会式	
⑤ 防災キャンプ 検討会議	平成29年12月18日(月) 防災キャンプ検討会議	
平成29年度防災キャンプの反省、課題、意見及び情報交換を行い、関係者等へ来年度以降の協力依頼、取組成果等の情報発信を行う。		

3 愛知県の啓発活動

愛知県青少年防災 キャンプ事例発表会	平成30年1月31日(水) (愛知県三の丸庁舎8階 大会議室)	
○基調講演 「防災の合言葉『命・支え合い・自ら動く』 ～子どもたちがつなぐ地域の輪～」		シンポジウムの様子
講師:近藤 ひろ子 氏 ・JICA(独立行政法人国際協力機構)防災教育担当 専門家 ・名古屋市港防災センター 防災教育アドバイザー		
○シンポジウム 「子どもたちがつなぐ地域防災」 ・事例発表 長久手市西小学校区防災キャンプ 田原市校区防災キャンプ ・意見交換 コーディネーター 近藤 ひろ子 氏 パネリスト 長 江 容 氏(長久手市教育委員会教育総務課 主事) 葛 谷 誠 氏(西小学校区まちづくり協議会) 伴 綾 子 氏(田原市教育委員会学校教育課 主任) 藤城 信幸 氏(田原市教育委員会学校教育課 共有コーディネーター) 佐藤 のぶ 氏(愛知県防災局防災危機管理課 主査)		
	講師 近藤 ひろ子 氏	
2市の事例発表内容を基に、「子どもたちがつなぐ地域防災」をテーマとして、主に「学校現場における防災教育」「子どもたちを含めた地域連携」という点について、意見交換がなされました。パネリストや参加者から「まちづくりの一環としての地域防災」という発想は面白いと思う。「地域プラットフォームを形成する上で、世代間を超えて共通体験をしたり、共通理解することが重要。」「防災キャンプ推進を市民主体の運営事業として発展させていきたい。」等、様々な意見が出されました。最後に、2市の取組について近藤先生より、「一人一人の特技を生かした避難所運営と、今年度、実際に防災キャンプを経験した子供たちの力を来年度以降に生かす発想を持っていただきたい。最初の一步は小さなもので良い。焦らず、継続することで防災の裾野を広げてほしい。」と、総評がありました。		

(3)実績スケジュール	
月 日	内 容
5月初旬から9月中旬	(田原市) 防災キャンプの事業ヒヤリング及び検討会議 (参加校単位で実施)
7月4日	(田原市) 防災キャンプ事前学習 (講師: 奥村 与志弘 氏)
7月24~25日	(田原市) 田原東部小学校防災キャンプ・田原南部小学校防災キャンプ
8月4日	(田原市) 防災キャンプ事前学習 (講師: 藤岡 達也 氏)
7月初旬から10月下旬	(田原市) 防災キャンプ事前学習 (各校)
8月24日	(長久手市) 第1回防災キャンプ企画運営会議 (参加者募集、プログラム等について)
8月24~25日	(田原市) 清田小学校防災キャンプ・泉小学校防災キャンプ・若戸小学校防災キャンプ
8月25~26日	(田原市) 童浦小学校防災キャンプ
9月12日	(長久手市) 第2回防災キャンプ企画運営会議 (スケジュール等の確認)
10月2日	(長久手市) 第3回防災キャンプ企画運営会議 (プログラム等の最終確認)
10月11日・12日	(長久手市) 防災キャンプ事前説明会
10月21~22日	(長久手市) 長久手市西小学校区防災キャンプ
10月27~28日	(田原市) 田原中部小学校防災キャンプ
11月19日	(長久手市) 防災キャンプ参加者報告 第4回防災キャンプ企画運営会議 (成果及び課題について)
12月18日	(田原市) 防災キャンプ検討会議
1月31日	(愛知県) 平成29年度愛知県青少年防災キャンプ事例発表会

3. 成果と課題

(1) 成果

本県では、「青少年の体験型防災教育」及び「地域の絆(きずな)づくり」を目的に、各地域において、多様な団体・行政・学校・家庭の連携により本事業を推進してきた。平成24年の事業開始当初から、地域と学校、更には教育委員会と防災行政等の関係機関・団体等の連携の難しさが課題として挙がる一方、その重要性が確認される中で、今年度は住民意識、地域特性が対照的かつ事業運営(行政主導・地域主導)が異なる2市の計8小学校において、宿泊を伴う避難所運営を実施した。その結果、両地区共に地域と行政の連動・協働で防災能力が向上したほか、学校を核として地域が繋がる絶好の機会を得ることができ、防災のみならず、将来的には様々な方面で力を発揮することができる地域プラットフォームが構築された。

【事例発表会 参加者意見(抜粋)】

- ・ 地域と学校が防災をキーワードに「まちづくり」を進めていければ良いと思う。
- ・ 子供たちから地域へと防災意識が高まっていく防災教育は本当に素晴らしい。
- ・ 大人がメニューを決めて教えるだけではなく、今回のように子供自身や地域の人が工夫して考えるプログラムを取り入れることも、防災教育や防災学習として大切なものだと思う。子供を生かすことが大切。

(2) 課題

平成24年度以降、県内の10市町で防災キャンプを実施し、様々な地域特性を考慮した防災モデル事業を基盤とする防災学習を継続して展開した結果、巨大地震発生時に津波被害が予想される沿岸部から、その他被害が予想される内陸部までの地域において、防災キャンプを実施することができ、事業開始当初と比べ、防災意識が高まった市町村や地域が多く認められる。今後の課題は、このような貴重な体験活動である防災キャンプの取組を、県内の他地域、学校にどのような形で広げていくかという点であり、これまでに構築した地域プラットフォームが、防災教育のみならず、様々な場面での連携・協働事業につながり、子供たちの豊かな体験に寄与できるよう、広く啓発していく必要がある。

4. 地域プラットフォームの展望(今後の方向性・取組等)

地域住民や多様な機関が関与できる「防災」を通じた新たな地域プラットフォームの構築の推進に加え、

- 構築した地域プラットフォームの多角的な活用
- 地域住民の積極的な学校行事への参加・交流
- 学校としての地域行事等への参加・交流
- 地域合同防災演習等、行事の継続、発展を目指す
- 小学校での防災クラブ設立による、防災の取組の継続等

に取り組み、地域プラットフォームを確実なものとしていきたい。

5. 団体プロフィール

愛知県教育委員会生涯学習課
 青少年教育・女性指導者支援グループ
 〒460-8534
 名古屋市中区三の丸3丁目1番2号



教育は 未来へつなく 希望の輪